

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年3月10日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	12	(依頼数)	17
地域アンケート	(回答数)	8		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3890300076
事業所名	グループホーム 柿の里
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏 名	前田 祐子
自己評価作成日	令和4年 2月 14日

【事業所理念】※事業所記入 いつも笑顔で生き生きと自分らしく	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ①【介護計画に沿ったケアの実践、結果の記録をする】 個人の記録用紙を見直し、介護計画に沿って実践ができたか記録に残している。 ②【利用者一人ひとりについての気づきや工夫、アイデア等を分かりやすく個別に記録をする。】 個別ノートを作っていたが、介助や業務に専念できたり確実な情報を伝える為、伝達ノートに記入して職員間で共有し実践できる様にした。 ③【会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービスの向上に活かしその状況や結果について推進会議時に報告する】 感染予防の為、ほとんど推進会議が開催できず、書面にて活動報告し、その返信にて意見やアドバイスを頂いている。 意見、アドバイスに対する考えは行政に書面で報告をしている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 宇和島市の取り組みで、近くの職業訓練校で、認知症サポーター養成講座を他事業所と協力して実施することを継続している。 自宅で畑仕事をしていた利用者は、事業所の畑で作業をしてくれており、自宅に農具を取りに戻るような時には職員が付き添っている。 クリスマス会等には、職員が歌ったり踊ったりして利用者を楽しませている。秋祭りの際には、職員が神輿を手作りして、利用者は法被を着て雰囲気を楽しむようにした。利用者や職員が、学生服やセーラー服を着て学生時代の懐かしい歌を歌うような場面をつくっている。100歳の誕生日には、折り紙のたくさん入ったくす玉を割ってお祝いをした。
-----------------------------------	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】
◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	普段の関わりの中で希望や思いを把握できるように努めている	◎		○	入居時に家族等から聞き取り、アセスメントシートに本人の「私の願い」等の情報を記入している。その後、職員が情報を得たら、日付をつけて追記をしている。 介護記録に利用者の言葉を記入し、必要な情報については、申し送りで共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	入所前の生活歴を把握し日頃の様子から把握するように努めている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族等からの情報収集に努めている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個別記録に具体的な会話内容や行動などを記録し共有している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	思い込みや決めつけをしないように、本人の普段の行動や言動から職員間で意見を出し合い思いをくみとる様努めている				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）から聞いている。	○	入所時に家族等から情報を聞いている			○	入居時、家族に聞き取り、基本情報シートに、本人の生活歴、趣味、好きなこと等を記入している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力（わかること・できること・できそうなこと等）等の現状の把握に努めている。	○	日々の関わりの中で観察しながら把握に努めている				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	不安な事や、不安定な事があれば介護記録に残し、職員間で共有し話し合って対応に努めている				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。（身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等）	○	申し送り等で話し合い原因等をつきとめ、把握に努めている				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録、体調管理表を元にある程度把握できている				
3	チームで行うアセスメント（※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む）	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人が何を求めて望まれているか職員間で話し合い検討している			△	ケアマネジャーが、家族に意向を聞いたり、職員から情報を集めたりして検討している。さらに、チームで検討できるようなくみを工夫してほしい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の生活の中で観察しながら職員間で検討している				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	検討し、課題を決め実践に努めている				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いをくみとりながら、望む内容になるよう努めている				ケアマネジャーが、家族の意向と職員からの情報をもとにして計画を作成している。さらに、チームで計画を作成できるようなくみを工夫してはどうか。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人やご家族の意向を取り入れたり、医師等の指導や意見があれば取り入れ作成している	◎		△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	孤立しないよう、できるだけフロアで生活感を感じてもらえる様努めている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ等の対策により今は出来ていないが、家族等には協力してもらえる様、お願いしている				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画を介護記録に取り入れ常に確認できる様にしている	◎			介護計画作成時には、回覧してから個人記録ファイルに綴じている。介護記録の上部に、計画の短期目標とサービス内容の具体的な支援を示している。 サービス内容の具体的な支援に番号を振っており、介護記録には、その番号と実践した事を文章で記入している。さらに、状況確認がしやすいような記入方法に工夫してみてはどうか。 介護記録に、実践した事とともに、利用者の言葉を記入している。 申し送り時に口頭で話し合うが、さらに個別に記録して支援に活かしてほしい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護記録に実践できたかチェックできるようにしている			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子（言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等）や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	できるだけ介護記録に記録するよう努めている			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	申し送り時や、ユニット会議時に話し合い連絡ノートを活用し記録に残している			△	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	定期的に見直しをしている			◎	ケアマネジャーが責任を持って期間を管理しており、6ヶ月に1回、見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	申し送りやユニット会議等で現状確認を行っている			△	2ヶ月に1回のユニット会時に、介護計画の内容にこだわらず、利用者全員について現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の心身状態や、身体の変化があれば見直しを行っている			○	骨折等、身体状態に変化があれば計画を見直している。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	緊急案件があれば、臨時のユニット会議を行う事もある			○	2ヶ月に1回、ユニット会を行って議事録を作成している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	活発な意見交換が出来る様工夫している				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	可能な限り多くの職員が参加できる様工夫している				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議時の記録を残している。口頭でも伝えている			◎	出欠にかかわらず、すべての職員が議事録を確認してサインをするしくみをつくっている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝、夕の申し送り、伝達ノートを活用し共有している			○	伝達ノートで情報を共有している。内容を確認した職員はサインをするしくみをつくっており、サインが揃っているかどうかは、管理者等がチェックしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りや伝達ノート、受診記録などで情報を伝えている	○			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人のその日の状態をみながら、その日したいと思える事を叶えるよう努めている				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣服の選択ができるようにしている			評価困難	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	会話の中から、思いや希望を聞き自己決定できるように努めている				クリスマス会等には、職員が歌ったり踊ったりして利用者を楽しませている。秋祭りの際には、職員が神輿を手作りして、利用者は法被を着て雰囲気を楽しむようにした。利用者や職員が、学生服やセーラー服を着て学生時代の懐かしい歌を歌うような場面をつくっている。100歳の誕生日には、折り鶴のたくさん入ったくす玉を割ってお祝いをした。
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	無理強いせず、出来る限り本人のペースで過せる様にしている				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	普段の生活の中で笑顔になれる様な言葉かけに努めている			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	日々のケアの中で表情等から思いを注意深く察知し、意向に添った暮らしができるよう支援している				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修や会議等で話し合い、言葉のかけ方や態度について意識をもって行動できるよう努めている	◎	◎	○	職員の気になるような言葉遣いや態度がみられれば、代表者(施設長)や事務長、管理者等が注意をしている。また、ユニット会時に接遇等について話し合っている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	一人ひとりに応じた分かりやすい声掛けをするようにしている			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレ時や入浴時には不安にならないような声掛けをし、カーテンを利用し配慮している				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時はノックし声掛けするなどして配慮している			評価困難	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時に説明をし理解して遵守している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物をたたんでもらったり他の手伝いをして頂いた時は、感謝の気持ちを伝える様にしている				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	おやつ、食事、レクレーションに参加する際やトイレ等でも声掛け合う場面がみられ、優しさや思いやりを実感している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	利用者同士の関係を把握し、トラブルにならない様に席の配置をきめている。孤立しない様に職員が間に入ったりしながら支援している			評価困難	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入ることでトラブルを回避している				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時に本人、家族から話を聞いている。本人から日々の会話で聞くこともある。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時の情報や入所してから会話で知り得た事もある				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍で行けていない。家族、知人等の面会も少ないが、窓越しに短い時間の面会をし、関係を継続している				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	窓越し、玄関での面会を行っている。施設内には入れていない。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。 (職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ感染防止の為、外出の頻度は少ないが、季節によってドライブに出掛け車の中から楽しんでもらうようにしたこともある。	○	△	○	昨年の春には、桜を見にドライブをした。夏には夜間に、宇和島城のオレンジライトアップ点灯式に参加した。秋には、地域の懸崖菊を栽培しているお宅に見せてもらいに出かけた。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外出支援はコロナ禍で職員のみで行っている。				散歩したり、テラスで過ごしたり、畑作業をしたりできるよう支援している。 室内で過ごすことが多い時期でもあり、さらに、意識して戸外で気分転換できるような取り組みを増やしてほしい。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	戸外に出る機会が少ない。施設内で日向ぼっこをしたりしている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナ禍で職員のみに対応になるが、感染対策を充分にして、季節の花を見学に行ったりしている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	一人ひとりの状態を把握し、個々にあった介護方法が見いだせるように職員間で話し合いケアを行っている。				3時のおやつ後に、ガイヤ体操や歌に合わせて体を動かせる等の「筋力低下防止運動」を採り入れている。 また、個々のできることに合わせて計算、塗り絵、数字並べ等を提供している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日ラジオ体操や手足の運動を取り入れたレクを行っている。食事前には口腔体操を取り入れている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できる事を職員が奪ってしまわない様に気を付け、出来そうな事は、声掛けや介助をしながら一緒に行う様にしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	楽しみや、できる事の把握をし、手伝い等もお願いしている。				洗濯物たたみやカーテン閉め、畑作業等、利用者それぞれに役割を持てるように支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	それぞれができること、得意な事をしてもらっている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域での花いっぱい運動や掃除等の参加をしている。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自分で、身だしなみや更衣等が出来る方には、季節にあった服を着れるようにしている。できない方には介助している。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 美容師資格を有する職員が利用者の希望を聞きながらカットをしている。 衣服は、家族が用意しているが、職員が普段着ている服を参考にして買い物の代行をしたり、また、誕生日に事業所から洋服をプレゼントしたりしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	自身で好きなように選んでももらえる様に、鏡や、タンス等が置いてある。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	更衣時に着心地を考慮し、好みの服を職員が選んでいる事が多い				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に応じたその人らしい服装を考え、支援している。				
		e	整容の汚れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にできたり、髪、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	朝や入浴後等、ブラッシングをし、着衣の汚れ等があれば、その都度さりげなくカバーしている	◎	◎	評価困難	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	美容、理容師の資格を持っているスタッフが数名おり施設内で行っている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人に似合う髪形を心がけ服装も本人の好みに合わせ工夫し支援している			○	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	音や匂い、食べる事の楽しみを理解している				利用者の中には下膳やテーブル拭き等を行う人がいるが、その他は職員が行っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	テーブル拭き、出来る方には下膳をしてもらっている			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった際には、感謝の気持ちを伝え、達成感につなげられるようにしている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	一人ひとりの好き嫌いを把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	メニューには季節の物を取り入れ楽しんでもらうように努めている			○	食事は事業所で手作りしており、地元の米やみそを使用している。利用者に馴染みのある山菜を採り入れたり、畑で採れた野菜を使ったりしている。
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	個々に合わせ、きざみ食、ミキサー食を取り入れている方もいる。おいしく食べて頂ける様工夫に努めている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人の使い慣れた物を使用している			評価 困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	コロナ禍で職員は違う場所で食べながら一人ひとりの様子を見守り、食べこぼしなどサポートはさりげなく行っている			評価 困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	フロアのキッチンで調理し、音や匂いが感じ取れるようにしている。声掛けしながらメニューを伝え介助している	◎		評価 困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	体調管理表に食事量等記入している。栄養バランス、カロリー、水分等に気をつけ個々に応じた量を出している。				これまでの献立表を参考にして、管理者が新たに献立をつくっている。食材の大きさや固さについては、その都度、職員で相談している。彩りよく盛り付け、果物をつけている。
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事や水分が少ない場合は、食べれる時に摂取できるようにしたり、こまめに声掛けし水分をとってもらうようにしている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスは受けていない。バランスの良い献立を心掛けている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具の消毒はこまめにしている。食材の管理にも気を付け新鮮なうちに食べれるようにしている				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解している				口腔ケア時に確認している。自分で歯磨きを行う人については、職員が、時々口腔内を確認している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	口腔ケアの際、気を付けているが、本人の訴えがないと分からない場合もある			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	受診の際に、アドバイス等があれば職員間で共有し支援している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夜間は外し、消毒液につけている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	利用者の力を引き出ししながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後は口腔ケアの声掛けをし、できていない方には介助している。			評価 困難	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	痛み等や腫れ、義歯の不具合などあれば、歯科の受診をしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄のパターンを把握し、出来るだけ自立できるよう声掛けや、誘導を行っている。				必要に応じて申し送り時に、排泄状況を報告してパッドのサイズ等について検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しており、水分補給や薬で調節している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	体調管理表を活用し、記録している。一人ひとりパターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	一人ひとりのその時々々の状態bの変化に合わせて、紙パンツやパット等を使用している方もいる。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間や看護師で話し合い検討し取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を活用したり、兆候をみながら声掛けし誘導している。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族に状況を説明し相談しながら使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	状態に応じて使い分けし日中、夜間も使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	適度な運動や水分補給を心掛け、自然排便が促せられるよう取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	時間帯や日数など職員の都合になりがちだが、本人に合わせ温度や長さ等の希望に添えるよう努めている。	◎		○	3日に1回、午前中の中入浴を支援している。入浴を嫌がるような人には、日を替えて支援している。自分で体を洗ってもらい、手が届かないような部分を職員がサポートしている。軽石を使う習慣がある人用に、軽石を用意している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	くつろげるように入浴剤を使用し本人のペースに合わせてゆっくりとできるように努めている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	見守りを行いながら、自身でできる事はしてもらい、出来ないところは介助している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず、タイミングをみて声掛けしたり、翌日に替えたりして対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前に必ずバイタル測定し本人の状態を確認している。入浴後は水分補給をしてもらい状態を確認している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者が一時間ごとに介護記録に記入し、申し送りをを行い把握している。				1名の利用者は、どうしても眠れないような場合にのみ、頓服で入眠剤を使用するが、その他の利用者については、昼寝が長くならないように気を付けたり、活動参加を促したりして安眠につながるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動での過ごし方や運動を取り入れるなどの工夫や居眠り等の際、声掛けしリズムを取り戻せる様に取り組んでいる。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	安易に薬に頼らず日中の過ごし方を検討し、必要に応じて医師に相談している。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	休息されたい時は休んで頂いている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話の希望をされる方はいないが、年賀状等書きやり取りされている方がいる。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	七夕等の短冊に願い事を書いてもらっている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば対応できるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙等があれば本人に渡している。読めない方には代読し聞いてもらっている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	希望があれば家族に理解、協力を得られるようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	意味や大切さは理解しているが、施設事務所で預かっている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	コロナ禍により、外出の頻度が無い為、欲しい物があれば家族に伝えたり職員が購入する事が多い。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	以前は買い物に出掛けていた利用者も高齢になり、あまり出る事がなくなった。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	小銭が入っている財布を持っている方がいる(把握している)				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	必要があれば、本人の希望を聞き、家族と相談し対応している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	月に一度、預り金出納帳のコピーを送付し家族等に確認、同意をもらっている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	外出や受診の対応、検査等に家族が付き添えない場合など柔軟に支援を行っている。	◎		◎	家族は遠方の方が多く、病院の受診は事業所で支援している。自宅で畑仕事をしていた利用者は、事業所の畑で作業をしてくれており、自宅に農具を取りに戻るような時には職員が付き添っている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先には、花や植物を置き親しみやすい雰囲気づくりをしている。庭には、季節の野菜を植えたりしている。	◎	○	○	玄関前には、スロープを設置している。玄関周りは、花を分け、植物を配置している。玄関を入ると直接居間につながるっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	リビングには、くつろげられるようソファを置き、壁面等には、季節を感じてもらえるような飾りをしている。利用者が折った折り鶴で作品を作り楽しんでもらっている。	◎	◎	◎	現在は、感染防止対策のため、食事等は、テレビや外の景色が見える方向にむけて席をつくっている。直接テラスに出られる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	不快のないように配慮し、朝・昼・夕の掃除、コロナ感染対策をも行い、換気もこまめに行っている。			◎	掃除が行き届き、気になる臭いはなかった。居間は、2方向の窓から自然光を採り入れて明るい空間になっている。みなで歌ったり、ゲームをしたりする声が聞こえていた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感が感じ取れるように、花を飾ったり、行事ごとの飾りつけなどをしたりして工夫している。			◎	窓からの景色から季節感を感じられる。室内に花を飾ったり壁飾りをつくったりしている。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	思い思いに好きな場所でくつろがれている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	直接見えない様にカーテンを使用している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	タンスや仏壇等、使い慣れた物を持参している方や、好みの物を飾ったり家族の写真を貼られている方もいる。	◎		評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	安全に生活ができる様にバリアフリーにし、歩行器でも行き来できている。居室内も一人ひとりに合わせた動線をよくしている。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	本人の物には、名前を記入し分けるようにしている。トイレや居室等も分かりやすくしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほつき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者がいつでも手に取れるよう本棚には本や遊具もおいている。希望があれば裁縫道具など出せるようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	危険防止の為、階段には扉を設置しているが、いつでも行き来できるようにしている。	○	◎	○	玄関は施錠せず、チャイムやセンサーを設置している。2階の階段に扉を設置しており、一階に降りるような時には職員が付き添っている。弊害を理解するような機会は特に持っていないが、職員は「鍵をかけないことは、当たり前のこと」と認識している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	基本的には鍵はかけない。やむを得ない事があればその都度話し合うようにしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関は基本施錠せず、センサーを設置し対応している。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個々のファイルに記載しいつでも見られるようにしている。現病については、受診報告書を活用し把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタル測定し体調管理表に記録し、身体状態の変化や異常があれば記録し報告している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になる事があれば看護師に報告しかかりつけ医等に相談できるよう関係を築いている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人、家族が希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	希望するかかりつけ医があれば診てもらい、特に希望がない場合には、施設のかかりつけ医に受診している。入所時に施設かかりつけ医を家族に説明している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診報告書に結果等を記載し職員間で情報の共有をしている。家族には受診後報告をしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時に利用者の情報提供書を提出している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院の連携室との連絡を密にし、状態を把握したり、退院前にはカンファレンスを行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	受診時等には、病院関係者とコミュニケーションをとるようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	施設の看護師にはこまめに気になる事を相談し、受診等につなげる様にしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間相談できる。必要であれば状態を見に来る体制も出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日、体調管理を行っている為日頃と違った事があればすぐに報告し早期発見、治療につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤の処方箋等は薬の保管ボックスに入れてあり、いつでもみられるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	飲み忘れや誤薬がないよう、3人の職員で確認している。服薬時、声に出して本人確認、曜日、時間等気を付けている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後の利用者の状態を観察し変化があれば、看護士に報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	個々記録に記入している。状態の変化があれば家族や医師に報告している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時に説明し話し合っている。状態変化の度に家族と話し合い意向を確認し方針を検討し共有している。				この一年間では支援の事例はない。 入居時、家族に説明を行い、意向を確認している。 状態変化時には、再度、説明を行い、医師、家族、職員で話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	かかりつけ医から家族に状況の説明をしてもらっている。職員には看護師から情報を伝え話し合っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員間でよく話し合い職員の不安な思いや力量を把握し看護師と相談しながらどこまでの支援ができるかを判断している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族に向け、できる事、出来ない事の説明を行い、十分に話し合いをし理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	利用者の状態をみながら変化があれば報告し連携を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の心理的な負担がかからない様に話を聞いたりして配慮している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	施設内外での感染症の研修に参加し、話し合いをしたりして勉強をしている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルを作成し勉強会、話し合いもしている。マスク着用や手洗い、手指消毒等徹底している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染発生状況等の情報は常に入手している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	市の情報、テレビ、かかりつけ医等からの情報収集に努め、随時対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は勤務に入る前に体温チェックを記録に残している。玄関先に手指消毒を設置しマスクも徹底し清潔保持が出来る様にしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	家族とはこまめに連絡を取り出来るだけ行事等の参加をお願いしていたが、コロナの影響で面会ができないため、電話での対応となっている。				感染症対策を徹底して、100歳のお祝いを戸外で行い、家族と一緒に過ごしたり、写真を撮ったりできる機会をつくった。 状況や日用品の購入等、必要に応じて小まめに家族に相談や報告を行っている。 柿の里だよりを2ヶ月に1回送付している。また、利用者個々の担当職員が近況をまとめたものを同封している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	以前は心地よく過ごせるように対応していたが、現在はコロナ禍で施設内の面会や出入りは出来ない。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	以前は参加して頂ける様に早めに声かけていたが、現在はコロナの感染防止のため面会制限をしている。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。 (「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	2ヶ月毎に柿の里だよりと担当職員が普段の様子等を一筆書き送付している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	電話等で生活状況を報告する際に知りたいことや不安に感じている事、要望等をお聞きしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	さまざまな家庭の事情により交流が困難な方がいるが、できるだけ理解して頂ける様に努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	柿の里だよりを2ヶ月毎に送付している。	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	遠方の家族が多く、現在はコロナ禍で交流ができない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	契約時にリスクの説明を行っている。その後も必要に応じて対応策など話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	定期的に連絡をとり、意見や要望等を伺うようにしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約の際、重要事項の内容を丁寧に説明し理解、納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居に至るまで利用者の状態に応じて一番よい方法をよく話し合い納得がいくように支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	明確に内訳等を提示している。改定があれば変更理由を説明し同意を得ている。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	自治会に加入し自治会長、近隣住民の方に推進会議に参加してもらい説明している。		◎		回覧板がまわってきている。 地域の情報を得ており、自治会の掃除に利用者と一緒に参加したり、文化祭が開催されるか確認をして、作品作りをすすめている。 敬老の日には、地元の保育園児がお花と手紙を持って来てくれた。 自治会の花いっぱい活動に参加してプランターに花を植えて飾っている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナの影響で自治会や地域の活動の参加、近隣の幼稚園との交流の機会が減っている。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進会議のメンバーを通じてお手玉の会や、幼稚園との交流がある。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナ禍もあり、来られる機会は少ない。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	機会が少ない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	ボランティアでお手玉の会の方々との交流を以前はしていたが、現在は出来ない。コロナが落ち着けば交流できるようにしている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	コロナ禍でなかなか出来ないが、自治会での花いっぱい運動の参加をさせて頂き楽しく過ごすことができた。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	他施設、自治会、幼稚園との交流があるが現在イベントはほぼ中止になったりしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	市役所、他施設、近隣住民、ボランティアの方々、家族は遠方の方が多く参加者は少ない。	◎		○	この一年間では、7月に事業所で会議を行った。その他は、書面で会議を行っている。地域住民、家族、他事業所、行政等の参加がある。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	2ヶ月毎に活動状況報告書、ヒヤリハット事故報告等の報告をしている。外部評価については、評価後に報告している。			○	活動状況報告、ヒヤリハット報告、職員の異動等について報告している。外部評価結果や目標達成計画については、口頭での報告となっている。
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	コロナ禍で会議は行っていないが、書面にて報告し意見や提案等を返信してもらっている。		◎	○	書面会議は、意見や感想を書いてもらえるようなくみをつくっている。自治会の方から、花いっぱい活動参加の提案があり、事業所でも参加して、その後の会議で活動の様子を報告した。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	日時は、毎回第2火曜日の13時半からと決めているが、現在は書面を送付している。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	行政に提出し、家族にも送付している。				
IVより良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念の“いつも笑顔でいきいきとじぶんらしく”は利用者、職員共日常的に取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	1階、2階のよく見える場所に提示している。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	施設内外で研修等に参加できるようにしているが、コロナ禍で中止になる事もある。				代表者(施設長)、事務長等が、ほぼ毎日事業所において、いつでも相談したり、話し合ったりできる。職員の希望を聞き、勤務の調整を行っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	少しずつスキルアップできるように職員間で話し合ったりして、コミュニケーションを図っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	勤務状況により給与水準を変えている。勤務年数、勤務時間による昇給等で職場環境の整備をしている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナの影響により、他施設の推進会議の参加、相互研修等の参加はほとんどない。交流はないが、インターネットを活用した研修は行っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	公休希望、有給の消化等、勤務の調整をしている。場合によっては、ストレスに対する相談も受けている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	職員会議等において学習し理解している。マニュアルも作成しいつでも見られるようにしている。				令和3年3月に虐待防止に関する外部研修を受講しており、ユニット会時に内容を伝達している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	管理者は職員と共に業務に入っており、コミュニケーションを図っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々の観察や関わりの中で不適切な事があれば個別に注意をしている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に声を掛けたり、話しやすい雰囲気づくりに努め話を聞いている体調が優れない時は休んでもらっている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的に職員会議で説明し話し合っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会議、ユニット会議で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	やむを得ず拘束しなければならない状況があれば、家族とよく話し合いを重ね理解してもらい、できるだけ拘束しないように努めている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	成年後見制度を利用している利用者がいる。職員は研修を受け理解している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	制度を利用している利用者はいるが今のところ利用を考えている方はいない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要があればいつでも相談や依頼ができるようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	各種、マニュアルを作成している。職員がいつでももらえるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に出来ていないが、日常の中で実践したり、看護士に応急手当を聞いたりしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットや事故報告書は速やかに記録し、職員間でよく話し合い対応等を検討して再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々のケアの中で、気づきがあれば申し送り等で対策を検討し事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを作成していて、いつでも見られるようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があれば対応できるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば対策案を検討し家族に納得してもらえるような体制をとっている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日常での会話から、利用者の話を聞くようにしている。			○	運営推進会議に参加する利用者は機会がある。日々の中で聞いており、バズルをする利用者から「もっと難しいものを」と要望があり、購入につなげた事例がある。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口については、契約時に説明を行い家族等には近況報告時の際に要望や、苦情等がないか聞くようにしている。	○		○	電話連絡の際などに聞いている。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	公的な窓口の情報提供は行っていない。				管理者は日々、職員とケアにかかわりながら聴いている。また、管理者から声をかけて聴くようにしている。
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	普段から職員とのコミュニケーションを取りいつでも聞く機会をつくっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員一人ひとりの意見や提案等を聴くように努めミーティング等で話し合い検討している。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員会議において説明し理解している。				外部評価結果や目標達成計画については、運営推進会議時に、口頭で報告している。モニターをしてもそのような取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	取り組み内容について話し合うようにしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	出来る範囲で取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告はしているがモニタリングの依頼はしていない。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	感染対策により推進会議の中止で報告出来ていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	防災マニュアルを作成しいつでも見られるようにし、周知できている。				3月(設備業者立ちあい)と9月(利用者と職員で)に避難訓練を行っている。事業所の井戸水は、災害時に地域の人も使用できるようにしている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	昼間、夜間想定でそれぞれ訓練が行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	自治会長や近隣住民の方に支援体制をお願いしている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	現在コロナ禍で出来てないが推進会議(書面)で自治会長から地区災害等の対応などのアドバイスを受けている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症サポーター養成講座を他施設の職員と協力し活動をしている。				入居相談等はあるが、他に相談支援を行うような取り組みは行っていない。 宇和島市の取り組みで、近くの職業訓練校で、認知症サポーター養成講座を他事業所と協力して実施することを継続している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	施設申し込み等の相談があれば状況をお聞きし対応している。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍により行えない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	以前は、短期大学生の実習を受け入れていたが、閉校となり今は行っていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	連携は取れているが、コロナ禍でイベントも中止になったりで出来ていない。			○	